

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年11月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	0570207639
法人名	医療法人 仙知会
事業所名	グループホームまつ風
所在地	能代市浜通町4番52号 (電話) 0185-54-4800
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1-1
訪問調査日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成) 4年11月15日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27人
職員数	29人	常勤29人, 非常勤 0人, 常勤換算29人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3階建ての 1~3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	管理費7,500円 他
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要(平成21年8月1日現在)

利用者人数	27名	男性	4名	女性	23名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	7	要介護4	6		
要介護5	4	要支援2	0		
年齢	平均 85.5歳	最低	65歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国部医院、山本組合総合病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は「風のまつ原」で有名な市の郊外に位置し、近くには一級河川の米代川や桜とツツジで有名な能代公園、新しく整備された河畔公園など、憩いの場が多く存在する静かで心休まる環境の中に立地している。建物は3階建ての3ユニットで、中は全てバリアフリー構造となっており、危険と思われる箇所を見つけては職員自らが補修を行うなど、きめ細かな安全配慮がされている。各居室にはスプリンクラーが設置され、火災などの災害時には消防本部と緊急連絡が取れる体制にある。一般家庭のリビングを思わせるような共有フロアでは、利用者それぞれが思い思いの時間を過ごしており、職員は利用者へ、さりげなく気配りしながら支援を行うなど、利用者一人ひとりへの配慮が感じられた。また、事業所として職員育成への取り組みを積極的に行い、意識の向上を図っていると共に、職員それぞれが得意分野を發揮し、日々の利用者支援に役立てている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「利用者職員と一緒に食事を摂ること」については、介助支援などで難しい状況ではあるが、お茶と一緒に飲むなど、共に過ごす時間作りに努めている。「入居者の生活に沿った時間設定」については、日勤と夜勤の2体制にしたことで、日中生活での支援の充実が図られている。「家庭的な雰囲気づくり」については一般家庭のリビングを思わせるような飾りつけや配置がされていた。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4) 自己評価は各ユニットごとに実施している。職員間で話し合った結果を基に、管理者が中心となり作成した。自己評価の結果は全職員に周知が図られているほか、今回の自己評価ならびに以前の外部評価は、外部の人も閲覧できるよう玄関前に置かれている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に実施され、市の福祉課職員、町内の自治会長、利用者や家族の代表の方々が参加している。会議では事業内容や職員の研修報告、感染症予防対策など、詳細な報告がなされ、意見・情報交換の場として活かされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 玄関前には意見箱を設置しているほか、運営推進会議や家族が面会に来られた際なども、意見や要望を聴くよう心がけている。また、毎月「まつ風通信」を発行し、日々の暮らしぶりを伝えることで不安への解消に努めている。出された意見や要望などは、今後の取組みに反映させ、活かして行きたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入り、自治会長を通じて情報の提供を受けている。お祭りなどの町内行事では事業所に立ち寄って頂いたり、小学校との交流・養護学校で開催されたミュージカルへの招待など、地域との交流も盛んに行われている。また、研修やボランティアも要望があれば受け入れる体制があり、防災についても地区の消防署と連携がとられている。

2. 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念には事業所の開所当時の思いが込められており、個人の意思を尊重し、差別することなく、本人の持つ能力を活かして安心・安全な生活を送ることを目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の玄関および3ユニットそれぞれの、だれの目にも留まりやすい場所に理念が掲示されている。職員はカンファレンスの際などに理念について考え、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入り、自治会長を通じて情報の提供を受けている。お祭りなどの町内行事では事業所に立ち寄って頂くなどの協力を得たり、小学校との交流や養護学校で開催されたミュージカルへ招待されたりもしている。	○	行事への参加の呼びかけなど、事業所側から地域へ情報を発信し、積極的に関わることで、より地域住民との関係が築かれていくと思われま。地域住民が気兼ねなく事業所と関わられるよう、更なる関係作りへの取り組みを期待します。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに実施している。職員間で話し合った結果を基に、管理者が中心となり作成した。自己評価の結果は全職員に周知が図られているほか、今回の自己評価ならびに以前の外部評価は、外部の人も閲覧できるよう玄関前に置かれている。	○	評価結果を業務改善や向上に役立てられるよう、問題ないと思われた評価項目にも満足することなく、更なる質の向上に向けて自己評価ならびに外部評価を活用していくことを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的を実施され、市の福祉課職員、町内の自治会長、利用者や家族の代表の方々が参加している。会議では事業内容や職員の研修報告、感染症予防対策など、詳細な報告がなされ、意見・情報交換の場として活かされている。また、外部評価の結果についても今後報告する予定であり、サービスの向上につなげたいと考えている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉課とは、お互い情報を交換し合うなど常に連携が図られており、事業の取り組み状況等について市から事業所への働きかけも積極的に行われている。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月カラー印刷の「まつ風通信」を発行し、利用者家族へ発送している。事業所内の様子や外出先での様子、地域の行事やセレクトメニューの内容などが写真入りで紹介され、日々の暮らしぶりが感じられる内容となっている。利用者の金銭管理状況も毎月報告され、用途を明らかにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前には意見箱を設置し、いつでも意見や要望を受け入れる体制を取っている。また、運営推進会議でも家族からの意見や要望を聴いており、家族が面会に来られた際も意見を聴くよう心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、馴染んだ職員が変わることによる利用者の不安に配慮し、欠員補充などの他は事業所内だけの異動に留められている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所の全体会議は3ヵ月に1回行われているほか、ユニット会議やカンファレンスはほぼ毎月行われている。職員研修は、新任研修やリスクマネジメント研修、感染症対策の研修などが積極的に行なわれており、事業所として職員育成に熱心に取り組んでいる。研修に参加した職員は内容を報告し、周知に努めることで、日々の業務に活かしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に所属し、同業者同士で情報交換などの連携を図ると共に、勉強会や研修会に積極的に参加することでサービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居前には事前調査にて状況を把握し、家族からの協力を得て早い段階から馴染みの関係を築いている。入居に際しては、見学に来てもらうことで事業所の雰囲気を感じ取ってもらい、本人の納得を得た上でサービスを開始するよう努め、必要に応じて精神面のケアも十分に行うよう配慮している。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	事業所の理念には、利用者のもつ能力を引き出し支援することも掲げられていることから、利用者自身ができることは可能な限り行ってもらいながら、利用者と職員が日常生活を共に支え合うことを支援の基本姿勢としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前の面談で、本人の生き立ちや暮らしぶりの情報を具体的に提供してもらうことで、思いや意向の把握に努めている。また、職員は利用者の話に常に耳を傾け、意思疎通が難しい利用者についても、出来るだけ思いを汲み取るよう、家族の協力も得ながら、本人本位の対応を検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成に際しては、利用者本人や家族、関係スタッフが加わり、今までの生活歴や暮らしの様子など、具体的な情報に基づき、利用者本人やその家族の希望を聴いたうえで、利用者本位の介護計画が作成されている。また、支援内容には事業所スタッフだけに留まらず、家族もチームに参加することで、共に協力し行う介護計画が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的あるいは状況の変化に応じた見直しがほぼ毎月のペースで実施されている。また、利用者個々の介護記録の作成を通じて状況の変化を日常的に捉え、現状に即した介護計画につなげている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用に関わる相談などには柔軟に対応し、急を要する方については他の施設を紹介するなど、地域密着型事業所としての役割を果たしている。また、お墓参りなどの外出や通院の送迎などにも柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者本人や家族の意向を基にかかりつけ医を決め、通院や往診の支援を行っている。また、事業所の協力医療機関とも連携が図られ、検診などでも協力を得ている。利用者への日常的な医療ケアは常勤の看護師が中心となって行い、医療機関への適切な情報提供につなげている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在、終末期に向けた支援を要する方が入居しており、医師の往診や家族の面会などのサポートを行っている。今後は重度化や終末期対応に関わる指針の作成を検討し、事業所としての体制を築いていく予定である。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>職員は利用者の尊厳を守るため、事業所の理念や研修等で学んだことを意識しながら支援にあたっている。日常生活においては、さりげなくプライバシーへの配慮に努め、利用者の中で大きな声を出さないなど、相手の気持ちを損なわないように努めている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の基本的な生活の流れの中で、利用者は自由に生活しており、職員は一人ひとりの生活のペースを尊重した支援を心掛けている。現在は喫煙や飲酒をされる利用者はいないが、今後希望があれば対応を検討することとしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セレクトメニューの日を設定するなど、利用者の希望を取り入れた献立作りが行われている。また、敷地内の畑で採れた野菜が食卓に上ることもある。食事は利用者の状況に合わせて、刻みやトロミをつけるなどの配慮がなされ、職員もさりげなく声かけや介助を行うなど、利用者を尊重した支援が行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回実施している。利用者の状況に合わせた福祉用具が活用され、安心、安全な入浴を心掛けている。その他、利用者の健康状態に合わせて足浴を実施したり、汚れなどの状況により随時入浴の支援を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や塗り絵、風船バレーなどのレクリエーション、体操など、日常生活の中に楽しみごとを設定し、気晴らしの支援に取り組んでいる。また、敷地内には畑があり、畑作業が好きな利用者が野菜づくりに関わるなど、利用者の生活歴や能力を活かせるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブなどのほか、近場には川や公園などの憩いの場が多くあることから、日常的な外出支援を積極的に行っている。外出が困難な利用者についても、天気の良い日はベランダに出て外気浴を行うなどの支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	玄関は夜20時頃から朝5時頃まで施錠しているが、日中は開放している。3階建てという構造上、安全面への配慮から各階のフロアに通じる扉には鍵をかけているが、移動に際しては職員が付き添うことで、移動が自由に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災訓練を春と秋の年2回実施し、地区の消防署からも指導等の協力を得ている。また、各居室にはスプリンクラーが設置されているほか、災害が起きた際の消防署への直通連絡や各職員への自動連絡など、防災システムも確立されている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士が作成した献立が法人本部より事業所へ送られ、その内容に従った食事が提供されている。また、10時のお茶や15時のおやつなど、補食の時間を設けることで水分や栄養分の摂取補助に努めている。食事や水分の摂取状況は具体的に記録され、利用者個人のファイルに管理されている。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の空間は、3ユニット共に小物や写真など、さりげなく自然な飾りつけがされ、一般家庭のリビングルームと同じ雰囲気を感じられる。また、テレビや雑誌、音楽を楽しむ機器なども設置され、皆で自由に楽しみ、過ごすことのできる空間となっている。各階のユニットへはエレベーターで移動することができ、車椅子やストレッチャーでの移動も可能である。2階と3階には広いベランダがあり、天気の良い日は気軽に外の空気に触れ、季節を感じる事ができる。館内は不快な音や臭いは感じられず、採光もよい。事業所全体がバリアフリー構造となっており、随所に手すりが設置されるなど、安全面に配慮されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が使い慣れた物や家族の写真などを持ち込むことができ、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮されている。全室フローリングでベッドが設置されているが、利用者の希望や状況により、床マットや敷布団などの対応も可能である。また、家族が来所した際は、気遣うことなく居室で一緒に過ごすことができるよう、プライベートにも配慮されている。</p>		

は、重点項目。